

## 【分科会の成果と課題】

### [成果]

- ◇ 地域連携を基盤とした小中一貫教育を推進していくには、「地域の人も交えて目指す子ども像を考えること」「地域と学校の実情を十分理解し考慮しながら計画すること」等が重要であることを共有できた。
- ◇ これから小中一貫教育を始める学校や、取り組み始めたばかりの学校にとって、既に継続実践している学校の成果を聞くことで、教頭の役割が分かり今後の見通しをもつことができた。
- ◇ とともに歩む“地域の学校づくり”を推進するための教頭の役割について、提案者の取組をもとに、中学校区の学校間、家庭・地域との有効な連携を可能にする様々な要素について協議できた。
- ◇ 組織の再編ができるのは、教頭の関与性である。教頭が先を見通して組織化していくことが大切であることが分かった。



### [課題]

- ◆ 1小1中の地域は比較的小中一貫教育を行いやすい。一方、複数の小学校がある中学校区では、難しいと捉えられている。難しさを逆に強みにすることができないか、実践例を増やしていく必要がある。
- ◆ コミュニティ・スクールや小中一貫教育の窓口は教頭であることが多い。職員に役割を割り振り、責任をもたせることで、職員の意識も高まり一体感が生まれてくる。その組織をどのように築いていくかが課題である。

## 【上越地区ブロック別研究大会の成果と課題】

### [成果]

- ◇ 開催の1年以上前から組織を編成して計画的に実行委員会を開催し、共通理解を図りながら取り組むことができた。妙高市教頭会は少ない会員数だが、少数精鋭で、上越市教頭会の応援をいただきながら、会場準備や当日運営を円滑に行うことができた。
- ◇ アンケートでは、すべての項目において95%を超える肯定的評価をいただいた。特に、分科会運営において、少人数によるグループ協議がよかったと100%の評価だった。全会員にとって、有意義な大会になったと感じている。



### [課題]

- ◆ アンケートでは、4%の会員が大会期日について改善を要すると評価した。また、欠席した会員も複数人に上った。音楽祭等の学校行事と重なる時期のため、本研究大会の実施期日を、全会員に早めに確実に周知し、全会員が参加できる手立てを講じる必要性を感じた。
- ◆ 分科会運営の成功の鍵は、提案内容である。発表に当たる教頭会内で、発表者の選定や主体的な研究に向けた取組が必要である。